



相愛大学 人間発達学部 同窓会報

発行所
相愛大学人間発達学部同窓会
〒541-0053
大阪市中央区本町4丁目1-23(本町学舎内)
同窓会室直通TEL&FAX (06) 6261-2040
学園代表 TEL (06) 6262-0621
E-mail: doso@soai.ac.jp

ご卒業おめでとうございます



相愛学園学園長
大谷紀美子

うな病気はほとんど無いと、私たちは思い上がっていたかもしれない。物流、人流が激しくなった昨今、必要な物や人だけが行き交うだけではないことを思い知らされました。人生の新しい局面に希望をもって立ち向かってゆか

れる卒業生の皆さんに対して、平穩であったはずの大学生生活の最後、大きな試練に立たされたことをネガティブに捉えるのではなく、ポジティブに今後の人生に生かしてくださる事を願っています。

住所・氏名等の変更について

住所・氏名等変更された場合は、相愛学園同窓会室まで葉書またはFAXでお知らせ下さい。下記の日程で短大・人間発達学部同窓会の担当者が在室しています。

- 曜日 毎週火・木・金曜日
- 時間 10:00～15:00

連絡先: 相愛学園同窓会室
〒541-0053
大阪市中央区本町4-1-23
TEL/FAX: 06-6261-2040
(FAXは24時間受付)

※学年幹事や京都・東海・関東各支部長にもご連絡下さい。個人情報保護の点からお問い合わせの際は会員特定をするために、会員番号又は学籍番号、卒業年、学科名等詳しくお尋ねしますのでご了解下さい。

学生たちは意欲的に取り組んでいます 学びを通して大きく成長



同窓会会長
栞原和加子
(昭和51年食物卒・旧姓 松村)

予期せぬ事が起こったとき、どのように対応するか、あるいは対応できるか、という能力が試されたとは思いませんか。「困った、困った」と、そして自分は何と不幸せなのだろうと嘆くか、あるいはその状態を逆手にとり新しい道を探るか、人々の反応はさまざまです。いずれにせよ私たちの経験値は通用しない場面が多くありました。今まで挫折せず調子良く人生を送ってきた者にとっては、ゆっくり考え直す良い機会と捉える訳にはいかないでしょう。これまでで幾度も踏いた経験のある者は、それなりに良い方向へと自分を導いてくれたかもしれません。

20世紀には、さまざまな病気の感染者が治癒できるあるいはコントロールできる薬や方法を獲得してきました。21世紀には恐れるよ

相愛女子専門学校・相愛女子短期大学・相愛大学人間発達学部卒業の皆様、新型コロナウイルス感染拡大で、安心・安全な生活や活動が制限され、お変わりなくご健勝にお過ごしかと心配が尽きません。大学祭の折に、同窓会を

開催する予定で企画や準備を進めていますが、残念ながら皆様にお目にかかれておりません。一日も早く日々注意して過ごし、安堵できる日常が訪れることを願うばかりです。

子ども発達学科は、昨年と同様に「相愛子どもわくわくあそび広場(以下、「わくわく」)を開催することができ、今回で8回目を迎えることができました。「わくわく」は、学生が考えた遊びや、学生のステージなど、わくわく隊学生と教職員(が企画・運営を行っています。学生が手作りのパ

ズル、カーリングなどのゲームコーナーや、手遊び・おはなし劇などの学生ステージ、一万個のドミノ、ペットボトルのけん玉などのおもちゃを子どもと学生が一緒に作って遊ぶコーナーなど様々なブースがあります。各ブースの学生たちは、子どもたちのことを考え、より楽しく安全に過ごしてもらえようとして試行錯誤しました。参加した子どももわくわく隊も笑顔で、とても楽しく活動することができました。

また、「あいあい相愛おはなしのへや」(詳細は4面参照)も様々なイベントを開催しました。

発達栄養学科は、昨年に開催できなかった1回生対象の集中講義である「産官

学食育実践演習」を開講することが出来ました。「産官学食育実践演習」では、食品会社、大阪ガス、大阪中央卸売市場などに学生が訪問し、生産・加工・流通をテーマに職場見学や講義などを行っております。今年度はまた新型コロナウイルスの影響もあり訪問は大阪ガスハグミュージアムだけでしたが、大阪中央卸売市場等のご協力もあり学内でも実施することが出来ました。大阪ガスハグミュージアムでは、リモートによる館内の案内とエコクッキングを行いました。学内実施の大阪中央卸売市場では、市場についてのビデオ、株式会社ういちによる魚についての講義とクイズ、JA香川による香川の特産

品の説明と試食を頂きました。講義を受けた学生からは「食に対してより興味を持つことが出来た」「クッキングスタッフとして就職したい」という感想もありとても良い表情で参加して頂きました。

卒業生の皆さんは大学在学期間のほぼ半分、新型コロナウイルス感染拡大により変則的な大学生活を強いられました。新学期が始まってもしばらくは授業が行われず、やっと始まるかと思えば多くの学生・教員共に初めて経験するオンライン授業となったものもありました。機器を通しての講義は、音声にタイムラグが生じ、またスマートフォンを終始見続けることは対面授業より多くのエネルギーが必要だったでしょう。

1年もたてば通常通りの授業が出来る状態に感染症も終息するかと、多くの人たちは考えていたようです。しかし、1年目の3月には例年のようなかたちでの卒業式は行えず、4月の入学式も変則的なものでした。そして、さらにもう1年、同じような状態が続きました。

日常生活にも大きな変化が生じました。頻繁な手洗いや消毒、それによって敏感な皮膚はガサガサに荒れたかもしれない。マスクの常時着用は息苦しさに加え、夏には暑さが倍増した感じがしました。その他、大勢で集まらない、人々との間の距離をとる、大声を出さないなど数え上げればきりがありません。クラブ活動はほぼ出来なかったのではないのでしょうか。もちろん、友だち同士で食事に出掛けることや、卒業生や新入生の歓送迎コンパなど出来ませんでした。学外での友人との付き合いもいろいろと制限され、従来の意味での学生生活とは大きく異なったかもしれません。アルバイトは、職種によっては日数を減らされるか、無くなってしまうものも多かったでしょう。

今年も、同窓会を開催する予定で、企画・準備を進めております。久しくお目にかかれておりませんが、その際は多くの方の参加をお待ちしております。そして、会員の皆様には、健やかに過ごされることを心より願っております。